

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 7 日現在

機関番号：13701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381056

研究課題名(和文)カリキュラムマネジメントの方法の体系化とガイドブックの開発

研究課題名(英文) Proposal for developing a handbook on the systematic methods of curriculum management

研究代表者

田村 知子 (Tomoko, Tamura)

岐阜大学・教育学研究科・准教授

研究者番号：90435107

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、具体的なカリキュラムマネジメントの方法を明らかにし、それらの方法を体系化した上で、実践のためのハンドブックを開発した。

教育目標の設定・共有、評価を核としたマネジメントサイクル、教科横断的なカリキュラム編成と実施、パフォーマンス課題を活用した教科のカリキュラムづくり、集合型の教員研修や校内研修の方法などの具体的な方法を開発し、これらの方法を統合する全体構造を示した。また、構造モデルに基づき学校の実践を評価するツールを提案し、他の手法との比較において特色を明らかにすると共に、カリキュラムマネジメントの実態把握をした。

研究成果の概要(英文)： After a detailed study of curriculum management, the various methods involved in it have been systematized for the development of a practical handbook.

We developed concrete methods involving setting and sharing of educational goals, the management cycle with an emphasis on evaluation, cross curriculum, construction of subject curriculum that employs performance tasks, and teacher training. We presented a comprehensive structural model to unify these methods and suggested tools for evaluating curriculum management, the characteristics of which were later determined by a comparative analysis. Using these evaluation tools, the reality of curriculum management was investigated.

研究分野：カリキュラムマネジメント、カリキュラム論、学校経営学

 キーワード：カリキュラムマネジメント マネジメントサイクル ハンドブック カリキュラム設計 カリキュラム
開発 教員研修 校内研修 ワークショップ

1. 研究開始当初の背景

わが国のカリキュラムマネジメント (Curriculum Management、以下「CM」と略)論は先行した教育課程経営論や欧米の「学校を基礎としたカリキュラム開発 (SBCD)」論を基盤としながらも、教育課程基準の大綱化・弾力化が実現し、さらには自律的な学校経営の基盤が整ったとされる 1998 年前後に創設された新しい論と把握される。論の創設の直接的契機は「総合的な学習の時間」の導入であったが、各教科における言語活動の充実化や道徳教育の一層の充実などを求める 2008 年改訂学習指導要領の実施においては、学校課題の解決をはかり学習指導要領の趣旨を教育課程と授業において実現するための理論と方法として、学校現場における必要感が高まっていた。それに応えるため、独立行政法人教員研修センターを始め各地の教育委員会や教育センター等において、CM をテーマとする教員研修が実施されてきたが、学校現場における認知度や意識的な実践度は低調であった。研究開始当初は、学習指導要領改訂に向けた議論において、CM が鍵概念として取り上げられつつある状況であったため、学校現場において、CM の考え方の理解を促進し、自校の実践を分析し戦略策定し、適切な方法論を選択・活用することを支援できるような体系的な参考書が必要となることが十分に予想された。

研究代表者は、これまでも代表者として二度の科研費助成を受け、CM の力量に関する研究、CM を促進する教員研修の内容・方法の開発研究等に取り組み、学術論文や学会発表の他、教育雑誌、あるいは集合型教員研修、ホームページ等に研究成果を公表し、教育委員会や学校における CM の定着・促進に貢献してきた。なかでも、CM の理論構造モデル (田村 2005,2009) を活用した、研修者による実践分析の手法の開発や、マネジメントサイクル各段階において学校の教職員の参画を促すワークショップ型の校内研修の開発等は実用的なものであり、学校における活用例も漸増していた。

しかしながら、教科横断的なカリキュラムのマネジメント、各教科・領域別の CM の方法論の区別に基づいた体系化には十分至っていなかった。また、新学習指導要領が目指す資質・能力の育成、コンピテンシー・ベースのカリキュラム開発などの議論はその途上であり、学校組織改革やコミュニティ・スクールの拡大化などといった学校組織運営面での変動も予想される状況にあり、それらの変動を前提として、従来の研究の蓄積も改めて問い直される必要性があった。

2. 研究の目的

本研究の目的は次の通りである。わが国の CM の実態、即ち各学校での実践化の特性や課題を明らかにする。CM 上の課題解決に寄与する個別具体的な方法論を検討・開発

する。それらの方法を体系化する。学校や教育委員会で使用可能な実践支援ツールを開発する。CM の考え方と方法をまとめた実践的なガイドブック (最終的には「ハンドブック」とした) を開発する。

3. 研究の方法

研究方法は、研究メンバーの専門性に基づき、カリキュラム開発、カリキュラム評価、学習評価、CM への関係者の参画促進、教員研修、教育課程行政などを研究対象として、訪問調査、学校や教育委員会等との共同研究開発、質問紙調査などを組み合わせて行った。

(1) 研究目的 (実態把握) に応じて、平成 27 年度は A 市立小中学校を対象とした、質問紙調査を実施した。平成 28 年度は、教員研修受講者を対象とした質問紙調査を実施した。量的な調査だけでは把握が困難な質的な実態については、訪問調査や学校との共同研究開発の過程において把握した。

(2) 研究目的 (具体的な方法論の検討・開発) に応じて、国内外の文献研究や国内外の学校訪問調査を実施した。学校や教育委員会との共同研究を遂行した。

(3) 研究目的 (支援ツールの開発) に応じて、学校や教育委員会との共同研究により、研修方法やカリキュラム開発方法、CM 評価手法等の開発と実証を行った。

(4) 研究目的 (方法の体系化) 及び研究目的 (ハンドブックの開発) に応じて、研究会議を複数回開催し、相互の知見を持ち寄り、議論を重ねた。

4. 研究成果

(1) 研究目的 (実態把握) に応じて実施した A 市立小中学校を対象とした質問紙調査において (平成 27 年度)、多くの学校が課題としている内容が明らかになった。主な課題は、次の通りである。特定の教員による教育課程編成、教科書通りの指導に精一杯の教員、パフォーマンス評価など多様な学習評価の実施、学校の実践の良さや成果を共有するシステム、地域の人材・素材の積極的な活用、教育課程に関わる評価への児童生徒の関与、総合的な学習の時間の指導、教員の多忙 (以上、50%以上の学校の課題)、教育目標達成状況の評価、教育課程表式における一覧性、次年度の改善に役立つ記録、年度当初の評価計画作成、全国学力・学習状況調査の結果の活用、概念や原理を理解させる息の長い指導、児童生徒の意見やアイデアを取り入れた授業づくり、研修時間の確保、地域の人材・資源の組織的管理、学習指導要領改訂など政策動向の学習、相互批判的も厭わない議論の実施 (以上、30%-49%の学校が否定的回答)。これらの課題は、訪問調査や共同開発研究においても確認されることが多い課題であった。

研究目的 とも関わり、より項目数を限定

したチェックリスト方式の質問紙を作成し、教員研修受講者を対象とした調査を実施した(平成 28 年度)。ここで課題と認識されたのは、一覧性の高い教育課程様式、各教科の関連性を意識した授業実践、次年度の改善に役立つ記録、学校外の施設の積極的利用、研修機会の積極的利用などであった。現在、多変量解析を用いた詳細な分析を進めており、今後もチェックリストの改善を図っていく。

(2)研究目的 (具体的な方法論の研究)に
応じて、次のような方法に関する事例研究や
開発研究を行った。一覧性が高く教科横断的
な年間指導計画、系統性や学習課題等を構造的
に示す単元構想図などカリキュラム関係
文書の開発・工夫とそれを活用したマネジメ
ント。パフォーマンス課題や「本質的な問い」、
ループリックなどを活用した教科のカリキュ
ラムづくり。アクティブ・ラーニング実践
のための CM。CM の各局面(実態分析と課
題設定、グランドデザイン作成、授業研究、
行事や年間指導計画の評価・改善、校内環境
整備など)における多様なワークショップ型
研修。各教科等と現代的課題諸課題との関連
分析。共有ビジョンの共創過程。CM を普及・
促進するための教員研修プログラム。学校図
書館の活用。生徒による授業研究やカリキュ
ラム評価への関与。

(3)研究目的 (支援ツールの開発)に
応じて、学校や教育委員会との共同研究により、
研修方法やカリキュラム開発方法、CM 評価
手法等の開発と実証を行った。特に、CM に
おいては評価段階が中核であるにも関わら
ず、学校は課題を抱えているため、カリキュ
ラム内容だけでなく組織的運営までを評価
対象とした CM 評価ツールについては、複数
の手法を試行・比較検討する調査を実施し、
各手法の特徴を明確化し、評価目的や評価主
体、組織等に適合的な評価手法を、実践者が
選択・組み合わせするための提案を行った。
中でも研究代表者が開発したカリキュラム
マネジメント・モデルを利用した実践分析手
法は、枠組みを提示することにより研修効果
や戦略策定には有効であるが、モデル自体の
理解など要するコストが大きいことが明らか
になったため、コストを減じる支援ツール
として、モデルに基づく簡易的なチェックリ
ストを開発した。これらの支援ツールは、研
究代表者のウェブサイトでも公開しており、
既に複数の教育センターや校長会、学校等よ
り、これらを活用した研修や実践研究の実施
の報告を受けている。

(4)研究目的 (方法の体系化)及び研究目
的 (ハンドブックの開発)に
応じて、『カリキュラムマネジメント・ハンドブック』を
公刊した。内容は、学習指導要領改訂との関
連における CM の意義や考え方、多様な教育
課題に対応する CM、CM の全体像、目標の
マネジメント、マネジメントサイクル、教科
横断的なカリキュラム編成、教科のカリキュ
ラムづくり、総合的な学習の時間・道徳・特

別活動・スタートカリキュラムづくり、「チ
ームとしての学校の在り方」の議論を踏まえ
た組織体制、教育課程行政による支援とそ
の活用、CM の理解を促進する教員研修、学
校における CM 実践を推進する校内研修、
である。これらについて、理論や考え方と共
に、具体的な手法や実践事例を示した、総
合的なハンドブックである。本書は、各学
校や教育委員会の取組に役立つよう、新
学習指導要領の趣旨を実現するために不可
欠な三つの側面を踏まえた編集を工夫した
点にも特徴がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

〔雑誌論文〕(計 24 件)

西岡加名恵、学習評価と
その方法、明治図書『授
業力&学級経営力』、
No. 83、2017、42-45、
査読無

吉富芳正、カリキュ
ラム・マネジメントの
とらえ方と推進のポ
イント、教育出版『
Educo』、2017 年
春号、2017、4-5、
査読無

田村知子、本間学、
根津朋実、村川雅弘、
カリキュラムマネジ
メントの評価手法の
比較検討-評価シス
テムの構築に向けて、
『カリキュラム研究』
、第 26 号、2017、
29-42、査読有

田村知子、カリキュ
ラム・マネジメント
全体の捉え方、明治
図書出版『実践国語
研究 341 号』、41
巻 2 号、2017、4-
5、査読無

西岡加名恵、評価を
生かしたカリキュラ
ムと授業の設計、日
本教育評価研究会『
指導と評価』、201
6 年 6 月号、2016、
30-32、査読無

田村知子、カリキュ
ラムマネジメントに
よる学校改善、日
本教育評価研究会『
教育時評』、第 39
号、2016、16-19、
査読無

田村知子、カリキュ
ラムマネジメント、
新教育課程ライブラ
リ、vol.0、2016、
16-17、査読無

田村知子、管理職に
求められる視点と
対応策、学校管理
職合格セミナー、
2016 年 1 月号、
2016、20-23、
査読無

田村知子、事務職員
の強みを生かした
カリキュラムマネジ
メント、学校事務、
vol.3、2016、6-
9、査読無

田村知子、カリキュ
ラムマネジメント、
特別支援教育研究、
No. 702、2016、
54-55、査読無

田村知子、チーム
学校で行うカリキュ
ラム・マネジメント、
教育展望、2016 年
3 月号、2016、46-
50、査読無

田村知子、カリキュ
ラムマネジメント入
門、高校教育、201
6 年 5 月号、2016、
26-30、査読無

吉富芳正、社会に
開かれた教育課程、
新教育課程ライブラ
リ、vol.0、2016、
18-

- 19、査読無
西岡加名恵、パフォーマンス評価のすすめ(特集 数値化できない評価) 教育研究、2016年2月号、2016、18-21、査読無
田村知子、[事例に学ぶ]カリキュラム・マネジメントの視点による課題分析と改善、教職研修、平成27年度6月号、2015、28-33、査読無
田村知子、学習指導要領の理念を実現するカリキュラムマネジメント、教師のチカラ、No.023、2015、38-39、査読無
田村知子、今あるものを活用し改善ベースで行うのがカリキュラムマネジメントの第一歩、総合教育技術、第70巻13号、2015、16-21、査読無
田村知子、年間指導計画を媒介とした協働によるカリキュラム改善の事例研究、岐阜大学教育学部研究報告(人文科学)63、63巻2号、2015、149-161、査読無
田村知子、スクールリーダーに求められる「新しい」学習観と経営観、シナプス、2015年3月号、2015、30-33、査読無
吉富芳正、学力形成に果たす教育課程の役割 秋田県の事例分析を中心に、明星大学教育学部研究紀要、第5号、2015、13-45、査読有
- 21 村川雅弘、鎌田明美、総合的学習の教育効果に関する追跡調査 - 鳴門教育大学附属中学校「未来総合科」卒業生及び元教員に対する面接調査を中心に -、『鳴門教育大学研究紀要』、第30巻、2015、72-89、査読無
- 22 村川雅弘、久野弘幸、野口徹、三島晃陽、四ヶ所清隆、加藤智、田村学、総合的な学習で育まれる学力とカリキュラム(小学校編) 日本生活科・総合的学習教育学会『せいかつか&そうごう』、第22号、2015、12-21、査読有
- 23 久野弘幸、村川雅弘、鎌田明美、眺野大輔、三島晃陽、松田淑子、山内貴弘、田村学、総合的な学習で育まれる学力とカリキュラム(中学・高校編) 日本生活科・総合的学習教育学会『せいかつか&そうごう』第22号、2015、22-31、査読有
- 24 田村知子、カリキュラムマネジメントで学校の力を高める、初等教育資料、2014年7月号、2014、62-65、査読無
〔学会発表〕(計9件)
田村知子、カリキュラムマネジメント評価の3手法の妥当性の検証とシステムの試作-カリキュラムマネジメントの評価手法の比較検討(3)-、日本カリキュラム学会第27回大会、香川大学教育学部・同附属高松小学校(香川県高松市)、2016年7月2日-2016年7月3日
吉富芳正、これからの子供たちに求められる資質・能力の育成と『学校図書館』、日本学校図書館学会平成27年度学校図

書館フォーラム・基調講演、帝京科学大学(東京都)、2016年2月6日 - 2016年2月6日

Tomoko TAMURA、Student Participation in Lesson Studies、World Association of Lesson Studies International Conference 2015、Khonkaen Thailand、2015年11月24日 - 2015年11月27日
Tomoko TAMURA、

Students' Participation in Curriculum Management、The10th East Asia International Symposium on Teacher Education "Development of Teacher Education in the Global Era"、Nagoya International Center (Nagoya, Japan) 2015年10月30日 - 2015年11月1日

本間学、村川雅弘、田村知子、根津朋美、カリキュラムマネジメント支援システムの機能に関する考察-カリキュラムマネジメントの評価手法の比較検討(2)-、日本カリキュラム学会、昭和女子大学(東京都)、2015年7月4日 - 2015年7月5日

田村知子、カリキュラムマネジメントへの子どもの参加の可能性、日本カリキュラム学会、昭和女子大学(東京都)、2015年7月4日 - 2015年7月5日

村川雅弘、田村知子、根津朋美、本間学、カリキュラムマネジメントの評価手法の比較検討、日本カリキュラム学会、関西大学(大阪府吹田市)、2014年6月28日 - 2014年6月28日

吉富芳正、学力形成に果たす教育課程の役割 秋田県A市の事例を通して、日本カリキュラム学会、関西大学(大阪府吹田市)、2014年6月28日 - 2014年6月28日

西岡加名恵、学校におけるカリキュラム改善の進め方 「逆向き設計」論からの提案、日本カリキュラム学会、関西大学(大阪府吹田市)、2014年6月28日 - 2014年6月28日

〔図書〕(計18件)

西岡加名恵、ぎょうせい、無藤隆 + 『新教育課程ライブラリ』編集部編『中教審答申解説2017--「社会に開かれた教育課程」で育む資質・能力』、2017、321(51-61)

村川雅弘、教育開発研究所、ワークショップ型教員研修-初めの一步、2016、163
村川雅弘編著、ぎょうせい、実践!アクティブ・ラーニング研修、2016、166

吉富芳正、ぎょうせい、『新教育課程ライブラリ新教育課程を生かす管理職のリーダーシップ-次世代に求められる資質・能力の育成に向けて』、2016、95(26-29)

田村知子、ぎょうせい、学校の評価・自己点検マニュアル(追録第16号)、2016、2003(272-278)

田村知子、村川雅弘、吉富芳正、西岡加

名恵編著、ぎょうせい、カリキュラムマネジメント・ハンドブック、2016、204
 田村知子、教育開発研究所、「チーム学校」まるわかりガイドブック、2016、135(38-39,53,59)
 西岡加名恵、不昧堂出版、教育研究、2016、(18-21)
 村川雅弘、ミネルヴァ書房、教育実践論文としての教育工学研究のまとめ方、2016、213(166 - 209)
 村川雅弘、三晃書房、森の学校 海の学校～アクティブ・ラーニングへの第一歩、2016、191(182 - 189)
 村川雅弘、ぎょうせい、新教育課程ライブラリー第2巻、2016、95(22 - 25)
 田村知子、教育開発研究所、結果が出る小・中 OJT 実践プラン 20+9、2015、239(220-225)
 吉富芳正、教育開発研究所、2016 学校管理職選考完全要点整理、2015、432(337-338)
 西岡加名恵、あいり出版、教科教育のフロンティア インクルーシブ教育をめざして、2015、224(117-134)
 村川雅弘、出版者教育開発研究所〔産業財産権〕、結果が出る小・中 OJT 実践プラン 20 + 9、2015、239(202 - 207)
 村川雅弘、三橋和博、八波田みゆき他、学事出版、「知の総合化ノート」で具体化する 21 世紀型能力、2015、130(8-19)
 田村知子、日本標準、カリキュラムマネジメント - 学力向上へのアクションプラン -、2014、56
 日本教育方法学会編(西岡加名恵、千々布敏弥、北田佳子、石井英真他著)、図書文化、授業研究と校内研修 教師の成長と学校づくりのために(教育方法43)、2014、160(77-90)

〔その他〕
 ホームページ等
<http://www1.gifu-u.ac.jp/~totamura/index.html>

6 . 研究組織

(1)研究代表者

田村 知子 (TAMURA, Tomoko)
 岐阜大学・教育学研究科・准教授
 研究者番号：90435107

(2)研究分担者

西岡 加名恵 (NISHIOKA, Kanae)
 京都大学・教育学研究科(研究院)・准教授
 研究者番号：20322266

村川 雅弘 (MURAKAWA, Masahiro)
 鳴門教育大学・学校教育研究科・教授
 研究者番号：50167681

吉富 芳正 (YOSHITOMI, Yoshimasa)
 明星大学・教育学部・教授
 研究者番号：60550845

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()

出願状況(計 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：
 国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年月日：
 国内外の別：